

伝える！ つなげる！ ゴースマイル！

宮小宮の丘

教育目標

学校 HP : <http://hachioji-school.ed.jp/komye/>

〇かしい子 〇たかましい子 〇ゆたかな子 〇みんなと仲よく生きぬく子

令和4年度 学校だより
八王子市立小宮小学校
発行責任者
校長 安藤 臣一
令和4年10月31日発行
第7号

「こみつきい」は小宮小の宝物

校長 安藤 臣一

先日の22日に実施させていただきました学校公開に際しましては、ご多用の中多くの保護者の皆様にご参観くださり、ありがとうございました。本校は、学校は授業こそが児童を育成する本舞台と考えておりますので、保護者の様に授業を参観していただき、その上で一人一人のお子さまの育ちを共有したいと考えております。したがって、学期に1回の学校公開と1学期、3学期の授業参観を計画し、授業の中で児童の成長の姿を見ていただくこととしています。

さて、実はこの10月というのは、次年度令和5年度からの特別な支援を必要とする児童の受付期間でもありました。そこで、「苦手さ」を感じている児童とその保護者の方と面談をし、どのようにその「苦手さ」を乗り越えていけばよいのか、そのための支援はどのようにすればよいのかを話し合ってきました。その際、本校が提供できる有効な「そのための支援」が特別支援教室「こみつきい」でした。



本校の特別支援教室「こみつきい」は、小宮小学校を拠点校として宇津木台小学校に巡回する教室で、今年度で2年目を迎えました。

この特別支援教室は、その子の「良さ」を活かしながら、発達等の「苦手さ」をトレーニングする教室です。ただ、「苦手さ」と一言で言っても十人十色で様々です。傾向として例示すると、コミュニケーション、感情のコントロール、緘黙、体幹、集中力、話すこと聴くことなどがあげられます。こみつきいの先生方は、この一人一人の違いを受け止め、「良さ」を活かし、「苦手さ」を克服していくための指導内容を考え、基本的に週2時間程度の授業を行います。授業ではもちろん教科書などはありませんから、3人の先生と専門員で

協力して一から授業準備をおこなっています。

3人の先生方と専門員の先生は、手前みそになりますがとても熱心です。そして特別支援教育での児童理解のあり方や新しい指導法を学び続けていますので、授業の内容も日々改善されています。

誰にでも「良さ」と「苦手さ」はあります。その「良さ」と「苦手さ」はその人自身の特性であり、個性です。ですから「苦手さ」があることは恥ずかしいことではありません。大切なことは、「良さ」を活かし、「苦手さ」と上手に付き合いながら、気持ちよく生活できることです。「良さ」を活かし「苦手さ」を克服することが特別支援教育であるならば、特別支援教育は、特別な人に行う教育ではなく、全ての人に必要な教育とすることができます。今後さらに時代が進むにつれて、この考え方が一般的になっていくことは間違いありません。「こみつきい」はこうした考えのもとで教育を進めています。

10月に行われた、次年度の就学に向けての様々な話し合いを通して、私は「こみつきい」を必要としている子がふえてきていることから、一人一人の「良さ」と「苦手さ」に寄り添う教育がより必要とされてきていることを実感しました。

小宮小学校は安心して楽しく学ぶことができる学校です。それはこのように「こみつきい」が大きな役割を果たしてくれているからです。だから「こみつきいは小宮小の宝物」なのです。

さあ、11月に入ります。11月は2大イベント「文化祭」があります。現在、全ての子どもたちが自分に挑戦しています。どうぞ、新しい自分に挑戦する子どもたちを応援してください。私たち教職員一同も、もちろん全力でがんばってまいります！

(※写真は、こみつきいの先生が、小集団学習で授業の目標や流れを説明しているところです。)

